

僕の住民監査請求 第四部 零落篇

中 相作

ええかげんにしとかなあかんぞと

「ええかげんにせえッ」

「いったい誰に怒ってますねん」

「誰に怒ってるのか自分でもわからなくなるぐらい怒ってるわけです」

「たしかに腹の立つことは多いですね」

「僕なんかもうテレビでニュースとか見

ても怒りっぱなしですから」

「それは君だけやないと思いますけど」

「そうかと思うと何が起きたのか理解で

きないようなニュースもありまして」

「どんなニュースですもん」

「公安調査庁の元長官が朝鮮総連と裏で

つるんでたゆうニュースとかね」

「あれだけはほんまに信じられへんよう

なニュースでした」

「ブッシュとフセインがじつは愛人関係

にあったみたいなニュースですから」

「そんなことあるわけがない」

「こうなるともう裏で誰が何をやってい

てもけっして不思議ではない感じですよ」

「ばれなかつたら何をしてもいいという

風潮が強まってるみたいですね」

「ばれへんかつたら牛肉のミンチに豚肉

まぜて水増ししてもええとか」

「あの北海道の会社の食肉偽装事件ね」

「ばれへんかつたら賞味期限が切れたよ

その会社の冷凍コロッケを安う仕入れて

転売してもええとか」

「あれはコロッケを横流しした業者も悪

いんですけど」

「ばれへんかつたら冷凍した肉を雨水で

解凍してもええとか」

「あとからあとからなんぼでも不正が出

てきました」

「実際あれだけのアイデアマンはちよっ

と見あたらんでしょうね」

「不正のアイデアマンではあかんがな」

「名張まちなか再生委員会もあの食肉偽

装の社長さんに一枚かんでもろてたらよ

かつたんでしょうね」

「なんでですもん」

「あの社長さんやつたらもつとましない

ンチキを指南してくれましたやろ」

「そんな指南はあかんゆうのに」

「でもばれへんかつたら何してもええね

んゆうて官民学が陰でこつそり癒着して

みてもあの程度のことなんですから」

「癒着ゆうたら語弊がありますけど」

「この手の悪事はあくまでもばれへんか

つたらゆうのが前提なんですから」

「ばれたらえらいことになります」

「たとえば社会保険庁がそうですね」

「年金記録の問題がばれましたから」

「おかげで名張まちなか再生委員会はい

まや名張の社会保険庁と呼ばれました」

「そんなうそゆうたらあかんがな」

「ええかげんにせえッ」

「今度は誰に怒ってますねん」

「あの報告書もばれへんかったらええねんみたいな感じが濃厚なんです」

「三重大の報告書ですか」

「浦山研究室の『歴史・交流拠点としての旧細川邸改修に向けて』ですね」

「どのへんがばれへんかったらええねんゆう感じなんですか」

「たとえばあの『ワークシヨップ編』の『はじめに』なんか見ましても」

「年度がまちごてたゆうとこですか」

「あの報告書はそもそも公表を前提としてませんからそんなような不注意なミスが生じやすいわけなんですけど」

「緊張感がないんですかね」

「ケアレスミスはまだいいとしても意図的なパラフレーズがあるんです」

「パラフレーズといいますと」

「ひとつの表現を別の言葉に置き換えてしまうことですな」

「どんなんですねん」

「さらもうひどいもんです」

「年度のほかに問題があるんですか」

「あの文章には『名張まちなか再生プラン』において、旧細川邸を改修し、歴史・交流拠点として整備することが提案

されている』と書かれてるんですけど」

「それはちよつとおかしいですね」

「名張まちなか再生プランには『初瀬街道沿いの最もまとまりのある町並みの中にある細川邸を改修して歴史資料館とします』と明記されてるわけですから」

「歴史資料館が歴史交流拠点という言葉にパラフレーズされてるわけですね」

「曲学阿世という言葉があります」

「キョクガクアセイでなんですかねん」

「学を曲げて世におもねるという意味です。阿は旧阿山町の阿と書きますけど」

「阿はおもねるゆうとこですか」

「つまり学問を曲げて世間や権力に迎合してしまう態度のことです」

「あんまりええ態度やないわけですね」

「細川邸を歴史資料館にすると明記したプランをつくった策定委員会の委員長さ

んの研究室が知らん顔して細川邸は歴史交流拠点になることが決まってましてみたいなうそかましてどないするねん」

「それが曲学阿世ですか」

「このパラフレーズだけで報告書全体の信頼性がゼロになってしまふんです」

「けどこう書くしかなかったんどこちがいますか」

「まさしく必然的なものでしょうね」

「どうゆうことですかねん」

「まちなか再生委員会はインチキにインチキを重ねてここまで来たんですけど」

「たしかにいろいろありましたけど」

「そのインチキのツケが避けがたくまわってきたということでしょう」

「インチキをしたばかりにパラフレーズをしなければならなくなつたと」

「インチキの片棒かついでるようなこんな研究に税金百四十九万九千円を投じる

ことはどうてい容認できません」

「やっぱり住民監査請求ですか」

「ばれたらえらいことになるんです」

「教訓にせなあきませんね」

「おかげで名張まちなか再生委員会はいまや名張のミートホープと呼ばれてるんですから」

「うそをゆうたらあかんゆうのに」

「ええかげんにせえッ」

「またかいな」

「けどほんまにええかげんなんですからこの三重大学の報告書」

「まだありますのか」

「細川邸はさっきのときは『歴史・交流拠点』ゆうことやったんですけどね」

「それがどないしました」

「報告書の六ページからは『歴史・文化拠点』ゆうことになって十二ページでまた『歴史・交流拠点』に戻りまして」

「えらい適当な報告書ですな」

「そのうえ『ワークシヨップ編』の次の『提案編』ではいきなり『歴史拠点および交流拠点となる旧細川邸（仮称『初瀬ものがたり交流館』）』ゆうことになってしもてるんです」

「“初瀬ものがたり交流館”ゆうのがいきなり出てくるんですか」

「なんの前ふれもなく出てきます」

「その“初瀬ものがたり交流館”が結局は“やなせ宿”になったわけですね」

「なんぼでもころころ変わるほどええかげんで適当な提案やゆうことなんです」

「その『提案編』では細川邸についていろいろ提案されてるわけですか」

「提案というより悪だくみの結果報告ゆうたほうが正確ですけど」

「どんな感じですかねん」

「たとえば『イベント利用』としては『NPOなばり実行委員会が名張のまちなかを売り出すために、年に数回、まちなか全域を舞台にしたイベントを企画実施し、イベントの拠点会場として使用する。例えば、2006年11月に実施された隠街道市のように、展示や催事の会場などに利用する。駐車場および堤防道路では青空市が開催される。また、“初瀬ものがたり交流館”はイベントの事務局としても利用される』とかですな」

「要するにイベント会場ですか」

「いくら悪だくみしてもこの程度の知恵しか出てこないわけなんです」

「しかし細川邸というハコモノでイベントやりますねんゆうのやったらほんまに君の言葉どおりハコモノ崇拜主義とイベント尊重思想のあいだで深い考えもなしにふらふら揺れてるだけの話ですがな」

「ほかに『イベント以外の日常的な利用として、第1にNPOなばり実行委員会が運営する事業（例、腕利きおばさんが運営する総菜バイキングのレストラン、腕利きの市民が参加するコミュニティレストラン、地域の人が収集した懐かしの写真展）の会場、第2に市民活動組織やボランティア組織の活動の場（例、ボランティアサークルが行う福祉のパンつくり講座、そばうち講座）、第3に冠婚葬祭などに利用したい市民への貸館が想定される』とかゆう提案もありまして」

「腕利きおばさんのレストランとか蕎麦うち講座とか君そんなええんですか」

「でも最終的にはこの『提案編』に準じて実施設計が行われたわけなんです」

「“やなせ宿”の基本になったのがイベントとか飲食とか展示とか講座とかこんな程度の提案やったゆうことですか」

「いやそんなもん提案ゆうたかて君」

「なんですなねん」

「施設が“やなせ宿”だけにこんな提案みんなヤラセですがな」

「しょうもないことゆうとる場合か」